法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-05

【図書紹介】『ゼロからはじめる哲学対話 哲学プラクティス・ハンドブック』河野哲也編　得居千照・永井玲衣編集協力　ひつじ書房　二〇二〇年

AIHARA, Horoshi / 相原, 博

(出版者 / Publisher)
法政哲学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政哲学 / HOSEI TETSUGAKU : BULLETIN OF HOSEI SOCIETY FOR PHILOSOPHY
(巻 / Volume)
19
(開始ページ / Start Page)
87
(終了ページ / End Page)
87
(発行年 / Year)
2023-12-29

【図書紹介】

『ゼロからはじめる哲学対話　哲学プラクティス・ハンドブック』

河野哲也　編　得居千照・永井玲衣　編集協力　ひつじ書房
二〇二〇年

相原　博

市民が自分の身分や属性にとらわれず、自由な対話によって思考を深める哲学対話だが、すでに日本でも全国各地で実施されている。この書評を読まれている方々も自由な対話に関心をもち、参加を検討されているかもしれない。あるいは、すでに参加しており、対話の難しさを実感されたかもしれない。本書を紹介している私自身、これまで幾度か哲学対話に参加しており、対話の進行役を務めたことさえある。それは喜ばしい体験であったが、同時に困難や失敗も経験したことは、告白しなければならない。私のような人間にとって、本書は、哲学対話の可能性を理解しなおすとともに、困難や失敗を乗り越えるうえで、大きな助けとなった。というのは、本書が、哲学対話にかんする多様な論点や実践の方法を、とりわけ網羅的に論じているからである。しかも、それらを論じる執筆者のほとんどは、日本において哲学対話を主導し実践してきた方々である。その意味で、熟練した実践者による経験の総括を読み取ることもできるからである。

本書の構成を示すならば、序章は導入部として、哲学対話の定義や歴史を論じている。第二章は、学校教育での実施や地域の問題の解決、自分の悩みと向き合うことなど、哲学対話の目的と方法とを論じている。第三章は、対話の進め方や記録の仕方、題材など、哲学対話の具体的な実践方法を論じている。さらに第四章は、これは類書に見られない内容だが、哲学対話になじみがない人のために、知っておきたい哲学のテーマについて概説してくれている。最後に第五章は、哲学対話をめぐる海外の現状や関連する書籍を紹介している。私に言わせれば、本書を貫くのは、それぞれの人生をよりよいものとし、自分が属する組織や社会をより優れたものとする、「対話の力」への信頼である。その「対話の力」に、私も期待するところが少なくない。というのは、停滞し続ける日本社会を変える可能性が、人々の自由で平等な対話のなかにあると、私が考えるからである。ハーバマースの啓蒙論を称賛する意図もなければ、アーレントの政治論を繰り返す意図もないけれども、それでも哲学対話は、日本に生きる私たちにとって、優れた可能性を含んだ活動であることは間違いないであろう。哲学対話を経験した人間の一人として、多くの人々が本書を紐解き、積極的に対話に参加されることを願って、紹介の文章を終えることにしたい。